酒田コミュニケーションポート（仮称）整備検討委員会
（第４回）

日　時：平成 28 年８月 29 日（月）13：30～
場　所：公益研修センター１階　中研修室

議　事　次　第

１　開　会

２　あいさつ

３　議　事

(1) 駅前再開発提案事業プランの概要について

(2) 事例報告

①酒田おもてなし隊活動を通じての駅前観光案内の方向性について

②コワーキングスペース（UNDERBAR）の運営について

③第３回委員会（先進地視察）の報告について

(3) これまでの委員会等の意見の整理について

(4) 意見交換

(5) 市民ワークショップの実施について

(6) その他

４　閉　会

資　料　1

会　議　要　録

会議の名称	酒田コミュニケーションポート（仮称）整備検討委員会（第２回）
開 催 日 時	平成２８年６月２２日（水）　午後１時３０分　～　午後３時５０分
場　　所	総合文化センター　４１２号室、中央図書館
出　席　者	○出席委員 矢口　明子　委員（委員長）、小田島　健男　委員（副委員長）、 片桐　晃子　委員、久木原　満　委員、齋藤　一男　委員、 佐藤　晶子　委員、佐藤　真美　委員、高橋　利春　委員、 田代　典子　委員、中原　浩子　委員 ○欠席委員 平尾　清　委員 ○事 務 局 中川企画振興部長、大石教育部長、阿部都市デザイン課長兼図書館主幹、 阿部図書館長、岩浪図書副館長 （都市デザイン課） 髙橋課長補佐、本間主査、土井係長、髙橋主任、今井主事

１　開　会（事務局）

２　あいさつ（中川企画振興部長）

・酒田コミュニケーションポート（仮称）整備検討委員会は、駅前に整備を進めようとしている公共施設のソフト部分について検討してもらう委員会である。ハード部分の駅前の事業の選定については、先日の６月１２日に公開プレゼンテーション審査を行い、合わせて市民の方からアンケート調査を実施した。集計が終わり次第、選定委員が選定し、６月中には市として最終事業者を決定する段取りになっている。

・前回の整備検討委員会は、流れを含めた総論的な話し合いとなったため、議論を深めることができなかったと思っている。今回は、中心となるライブラリーセンターの機能検討について、現在の図書館の実態を見て課題を共有していただき、議論を深めていただきたい。忌憚のないご意見を賜りたい。

３　議　事

(1) 前回委員会における確認事項等について（資料２～５に基づき事務局説明）

・質疑なし

(2) 本日の進め方、スケジュール等について（資料６、７に基づき事務局説明）

・質疑なし

(3) 図書館の事業等説明について（資料８に基づき事務局説明）

・質疑なし

(4) 中央公民館施設見学

〇児童図書館について（質疑）

・母と子のお話会があるのか。

→（事務局）月２回している。紙芝居も数多くあるし、需要もある。蔵書数は１万７千冊で、７，８千冊開架している。

・自動貸出機は子供も簡単に借りられていい。

〇中央図書館について（質疑）

・図書館の古くなった本をリサイクルで市民に提供している（入口近くに棚を設置）。

・３階はWi-Fi配備でネット利用可。

・学習室が人でいっぱいだと、公益大の図書館で勉強している子が多い。もっと健全な場所（学習などができる環境）が増えればいい（昔は旧西高校舎で勉強できた）。

・学習室の利用者は東高生と西高生（一部）の利用率が多い。

・学習室は大人でも利用できるのか。

→（事務局）できる。１階で申込み（指名記入）して利用する。利用者カードがなくても利用できる。

(5) 意見交換

〇２班に分かれて意見交換会

事務局

・本日は４つのテーマ挙げさせてもらい、その視点で１時間ほど議論していただきたい。

・各班の進行については委員長、副委員長にお願いする。肩の力も抜けていないところもあるので皆さんから近況等を踏まえて、自己紹介をお願いしたい。

・付箋に課題や改善点、新しいアイデアでもよいので一人ずつ発表していただきたい。

●Ａ班　　矢口委員長、久木原委員、齋藤委員、佐藤(真)委員、田代委員

委　員

・2 月から新しい仕事に就いて 4 ヶ月半くらい経ってしまったが、知れば知るほど分かっていなかったことが分かってきた。でも駅前は、自分が酒田に来てからずっとあんな感じなので、今度こそは何とかなればいいなということで考えている。大学時代の専門は行政学で、行政のあり方みたいなものを考えていたので、実践する機会を得たと思っている。

委　員

・高校にはいろんな部会があり、図書館部会がある。今年は西高が事務局となり、立場上で部会長をすることになったことからこの度委員となった。自分が図書館に行くことはあまりなく、学校にあってもなかなか行かない。今日は、こちらの図書館を見せていただいて、改めて使われているなと実感している。学校の司書に聞いたところ、学校の平均貸出冊数は１人 3 冊程度となっている。

委　員

・普通の母親の意見ということで参加させていただいている。

・駅前には、子供の部活の関係で毎朝、夕方、夜と合わせて 3 回通っていて興味があった。駅前に子供の待合室ができたらいいなと思っている。普通の意見しか出せないと思うがよろしくお願いする。

委　員

・自分は酒田に住んだことはないが、仕事の関係でお世話になっている。酒田には大変お世話になっている人がおり、ある意味身近になっている。

・観光の目線でのまちづくり、地域づくりということで今回お力になれればと思っている。普段仕事では地域活性化に結びつくような視察とか、海外国内を含めた視察の企画、添乗も行っている。

委　員

・若者の目線かつ仕事もやっている民間という目線で意見出せたらと思っている。

委　員

・酒田の図書館のひとつのポイントは、公益大と支所にも図書館がある。既にやっていると思うがさらに連携が必要と考える。

・（現在の図書館は）バリアフリーの面で課題があり、エレベーターもない。

・駅は高校生と観光客だが、まずは高校生の視点を大事にしたい。

・子育てとあるが、図書館は赤ちゃんからお年寄りまで、収入も関係なく無料で使用できる施設である。介護、障がい、外国人の視点も大事である。

・酒田市の各種行政計画の蓄積する場所として、公文書を過去のものから置いてもらうと良い。

・市民の古本をリサイクルコーナーに持って来れば、ごみの減量に繋がる。

委　員

・本を読んでも自分はすぐ集中できないので、窓からの外の眺めが気になった。木々が見えてとてもゆっくりできた。読書する人は、そんなに気にもならないかもしれないが、そういった快適性は必要かなと感じた。

・高校生の立場で学習室はありがたく、集中できる環境である。列車待ちとかの生徒が勉強できる環境が作れたら良い。

・母親と父親が一緒に来ているようなデータがあったので、子供用のスペースの充実を。外から転勤して来た人に聞いたが、知り合いもいないので公園デビューしようと思ったが日中誰もいなかった。そんなときに図書館に行ったら知り合いができるといったものが、ＰＲも兼ねて出来ればどうだろうか。そういった意味で、子供用（児童図書室）と中央図書館に壁があったので、（壁なく）気軽に行き来できたら良い。

・気軽にお茶とか飲めるスペースがあってもよい。気軽に立ち寄れる雰囲気が欲しい。

・閲覧室では、一生懸命に読んでる方と目が合ってしまう。そういうのが気にならないように、窓際のようなスペース、広々とした開放的なスペースが欲しい。

・酒田ならではの図書館を出して、酒田をアピールできると良い。

委　員

・もう少し開館時間が長ければ、社会人も仕事帰りに立ち寄れる。

・勉強室や学習室があっても中高生があまり知らないのではないか。実際自分の子供やその友達に聞いてみたが行ったことがない。こんな良い環境があるのだなと初めて知った。もう少し情報発信した方がいい。

・部活で忙しくて土日も行けないと言う子供が多いと思うが、忙しくても行きたくなるイベントが欲しい。

・静かな学習スペースを広げると良い。

・乳児幼児の読み聞かせの回数を多くしてＰＲしたら良い。生活の一部になるようになるともっと集まってくるのではないか。

委　員

・場所が酒田駅前ということで、今回山形から新庄乗換えで、電車で来た。

・初めて乗ったが、列車からの車窓がとにかく素晴らしかった。最上川がずっと右に見えて、山々や風力発電が見えてきたりヨーロッパのようだった。緑がたくさんあって素晴らしい景色があって、こういった風景を見ながら、この酒田のここが目的（目的地）になるような一つのストーリーができると素晴らしいのではないかと感じた。

・この物語ができ、県内、市外からのお客さんが来るようになると、きっと市内からも集まってくるのではないか。割と地元の人は地元の良さが分からない人が多いので、外からのいろんな人から注目されて集まるようになるのが、一つのポイントとしてあるかなと感じながら来た。

・一つのストーリーを作ってツアー化するということが面白い。それには何が目的なのか、なぜここに来なくちゃ行けないのかというものが、この図書館を含めた駅前にあるというのがやっぱり前提となる。やはり一つ大きな目玉が大事。そうした時に図書館も普通の図書館ではなくて、本当にこれまでないような図書館を目指しているということだったので、まず県外からのお客様が来た時に必要となってくるのが、いろいろな酒田の魅力、地元食が情報として得られるということだと思う。ここに住んでいる人が勧める酒田の名所だとか歴史だとか何か情報として得られる。その酒田の人の顔が見える、その人と話しができるというスペースがあれば面白いのではないか。
・具体的には酒田ならではの食が楽しめる、地元ならではの情報、見る、読むだけでなく実際体験もできるというところもあればいいのではないかと思う。
・さらには酒田の人たちがこういうものをやっている、取り組んでいるということを市民が自由に発信できる場所が図書館の中あるいは近辺にあったら面白いのではないか。
・児童文庫からの景色が駐車場だったので、子供にとって、子育てのママにとって癒される風景がある中で読みきかせなりできることが必要と思う。
・利用者のほとんどが女性というデータがあったが、先ほど実際行くと男性がほとんどだった。なかなかまちづくりというと女性の声が大きいが、ああいった形で男性利用者が多かったので男性の目線やなぜこの時間に男性が集まっているのかなど検証すると今後のイベントの組み立てのヒントになるのではないか。

委　員

・キッズスペースと学童施設が隣接しているのは、良い。
・ガラス張りの新刊が手に触れられないのは、残念。
・レビューとかが欲しい。本を読む人は何で決めるか。本屋を参考にして欲しい。並べ方も工夫が必要と思う。
・ＳＮＳへの対応がされていない。
・19：00 で閉館してしまうと、仕事が終わってから、試験の対応で勉強する人が利用できない。小さい子供がいると家に帰るとなかなか出来ない。会社で試験勉強をやるわけにもいかない。仕事上で必要な試験の勉強を、仕事帰りの数時間と考えると、21：00 くらいまでやっていてもらうと利用用途がぐんと上がるのではないか。
・キッズスペースについて、流行と教育というところで今三国志を知りたがる子供が多い。なぜかというと妖怪ウォッチの影響である。親に三国志って何なのと聞くが答えられない人が多いので、三国志の学習本がすごく子供達に読まれている。そういう流行と教育というものに敏感になるような、そういう感覚の職員が必要だと考える。
・キッズというと幼児を大体想像するが、幼児だけでなく小学校低学年くらいの子と一緒に行動することが多いので、そういう子達が一緒に来ると飽きてしまう。例えば、レンタルＤＶＤが見られるような場所など、幅広い年齢層に対応できると来易くなる。
・一度メール送るタイプではなく、番号認証のＷｉ−Ｆｉにしてほしい。
・スマホ対応のＨＰにして欲しい。図書館を検索するアプリがたくさんある。バーコードもすべて読み取れる。自分が読んだ本の記録や気になった本の予約ができたりする。
・学習室は、テーブルに電源を付けて欲しい。コピー機の設置も欲しい。
・自分の地元には、大学受験用の赤本があった。高いのでみんな買えない。手続必要なのかもしれないが、置いたら、東高の子とか来るのではないか。
・英語学習の機会について、酒田一中、二中の子と話す機会があった。英語学習というか英語に囲まれる機会がないようだ。生徒からコンビニとか表札とか値札とか全部英語にするぐらいしたらどうかと言われ、それでは不便ではないかと応えたら、そっちの都合でしょと言われた。子ども達にとっては、英語を学べない方が不便だと。確かに私達は英語に囲まれた環境は不便だが、子供達にとっては

必須になるので、私達の感覚で不便だと考えてしまうのは子供達にとってはマイナスである。ちょっと行き過ぎたくらいの国際色のある図書館とかにしてしまった方が、子供達に英語に囲まれた環境を作ることができる。ＡＬＴで時間のある人にいてもらって、英語でしか話せないとか、それくらい思いきってやったら利用価値が上がるのでは。

委　員

・学生は、学校に図書館があるので、あえて市の図書館に来る理由をどう見つけるかというところはあると思う。やはり遅くまで勉強で利用できるとか、土日に利用しやすいとかそういったところは必要と思う。

委　員

・使い方を既に知っている人はいい。先ほど、図書館で新聞読んでいる人達はたぶん新聞を広げやすいのだと思う。落ち着いて新聞読めるから、あえてあそこで読んでいる。知っている人はいいけど、知らない人へ、こうできるよという情報発信をしっかりしないといけない。

・本屋と何が違うか。なぜ本屋に行くか。今どういうものが流行っているか、売れているかがすぐ分かるからである。例えば 20 代で読んで起きたい本とか、あえて特定の年齢層を触発するとか、名作をきっちり紹介してくれる人とかカウンセラーのような、どんな本を読んでおくべきだよと教えてくれるような人がいるとよい。

委　員

・本をあまり読まない自分としては、図書館がそんなにも身近ではない。こんなことを考えているけど、こういう本が欲しいけど、自分で探せない人に紹介してくれるコンシェルジュのようなそういう人がいると行ってみたくなると思う。

・ネットで検索できるし、本も見られる時代だが、なぜ図書館に行くのかとなった時に、相談できるというのはすごく重要ではないか。

委　員

・一般の方は、レビューをみる。本の感想である。図書館の本に帯がないので、やはり見せ方が重要と思う。

・郷土史のコーナーも閉架書庫の脇にあったが、そこに公務員志望は必読とか、公務員になりたい人は自分のまちを知らないといけない。そういう工夫が必要で、図書館だからこそできる本の紹介方法があるはずである。

委　員

・点字本や音声など、障がい者への対応も大事である。

委　員

・体験の場がそこで出来なくても、出来る場所への案内を観光情報センターで行う。地元体験へ結びつける仕組み作りを。

【Ａ班】ホワイトボードまとめ

●交流

・学生が部活で忙しくても行きたいと思えるイベントのようなものがあればいい。
・気軽に立ち寄れる雰囲気作りをしたい。
・開館時間を長くしてほしい（仕事後の社会人への対応、学校などの試験対策で夜遅くまでしてほしい。せめて２１時くらい）。
・市民間でのイベントや交流、学びとなる場が欲しい。
・子育てだけでなく、介護、障がい者、移住者の視点からの設計が大事。
・地元の食が楽しめる場が欲しい。
・市民が本を持ち込めるリサイクルコーナーの設置（ゴミの減量化にもつながる）。

・市民や来訪者関係なく自分の取り組みが発表できる場を作りたい。
・将来の利用者となる高校生の視点を大事にしたい。
・本のコンシェルジュがいるといい（本屋との差別化）。

●子育て

・乳児、幼児の読み聞かせイベントがあるのは良い。
・キッズスペースが学童施設と隣接してあるのは良い。
・子連れの親が利用しやすい環境づくりが必要。
・キッズスペースに幅広い年齢（乳児、幼児、小学生くらい）に対応できるようなＡＶコーナーなどの設置（子育て中の親が連れて来られるように）。

●学び

・静かな学習室があることで集中して勉強や作業ができる。
・子供の流行と教育を結びつけたものにして欲しい（例：妖怪ウォッチの三国志から、その本を充実させたブースや企画コーナーなど）。
・学生は学校に図書館があるため、時間や機能で差別化していかないと利用者となってくれない。
・学習室に電源、コピー機があると便利で利用者の幅が広がる。
・（進学する学生向けに）大学受験の赤本の設置の充実により、学生の利用性をはかる。
・英語を勉強する機会や場所のように特化したブースの設置をすると良い。

●情報発信

・子供たち（特に中高生）が図書館の利用方法をあまり知らない。子供の知る機会や情報発信の工夫をするべきである。
・利用者が見たいと思うような工夫（本のレビュー、ポップ、並べ方、見せ方）が必要である。
・ガラス張りのところに新刊が置いてあるため手に取って見れない。
・ＳＮＳ（facebook、twitter 等）での情報発信がない。
・酒田市の各種計画等の行政資料のコーナーの設置をしたい。
・酒田市の文化をＰＲするスペースを目立たせたい。
・酒田駅が目的地になるストーリーツアー化をしたい。
・地元ならではの情報や発見ができるスペース（体験コーナー）のようなものができるといい。
・フリーＷｉ-Ｆｉの設置（現在は登録が必要）。気軽に利用しづらい。
・検索に便利なスマートフォン対応のＨＰの開設をしてほしい。
・地元の人がすすめる酒田の名所を紹介するコーナーが欲しい。

●Ｂ班　　小田島副委員長、片桐委員、高橋委員、佐藤（晶）委員、中原委員

委　員

・今現在の児童図書館が中央図書館と分かれているのは、にこっと（子育て支援団体）のお母さん達が声をあげたのがきっかけにある。児童図書館が分かれていないと、子どもが急に泣き出したり、大きな声を出したりなどお母さん達はゆっくり本を選ぶことができなかったし、子供もゆっくりできなかった。市に相談したら、当時の子育て支援課長が来てくれて、会議を開き市で検討してくれて今の形になったという経緯がある。酒田市は声をあげたら応えてくれると思い、今回も自分たちの声が反映されればいいなと期待している。

委　員

・図書館が酒田の文化の中枢を担ってきたのだなと感じ、大事にしなくてはと思った。
・前任の方が亡くなられた後に県立図書館の委員会を引き継いでから何年か経ったが、勉強させてもらっている。県立図書館は蔵書数が４０万冊。開架が少なく、もったいない。県人文庫のスペースを広げて開架を増やした。最近、チェリーランドの近くに親子連れで行けるシアターができたり、バー

コードが本についたりした（酒田市導入済）。前は飲食厳禁だったが、授乳コーナーや赤ちゃんの飲食可能スペースができた。だんだんとニーズに合わせて変わってきているという話を聞いている。
・酒田市の図書館利用者データを見ると、学校に通う前の子どもや、子育て中のお母さんたちの利用率が多いと感じた。児童書の充実は大事である。国立図書館も独立して児童館を作った。酒田も絵本の充実が目玉になるといいと思う。
・中高年（６０代以上）の知的な男性の読書ニーズに応えてほしい。
・児童書と中高年向けの本を充実したうえで、ヤングアダルトコーナー（10 年前くらいにできた）ももっと充実して欲しい。

委　員

・活字とは縁遠かったが、自治会連合会に入り、図書館協議会の会長をしている。
・新聞だけは毎日読んでいるが、本とは縁遠い。図書館を見てみて、年配の方に優しい本（活字が大きい）があった。他にもテレビで見たのだが、見やすい本（背景が黒で文字が白）があるなど、最近の図書館は年配者に優しい図書館になってきていると感じる。

委　員

・本に関して言えば、映画のおくりびとに感動して移住する前は、千葉で学習塾をしていた。２歳半から 55 歳までの 100 人くらいの生徒を一人で教えていた。英語を教えてはいたが、基本的に国語が大事だと思っていたので、一番取り組んでいたのは本を中心にして国語力を鍛えたくて、英語塾をしていた。
・ブラジルに５年住んでいた時は、上の子供が１歳で、下の子供はブラジルで生んだ。日本語の力が大事だと思っていたので、子供に毎日絵本や昔話を読んでいた。

委　員

・平成 13 年に遊佐でお世話になっていて、平成 20 年まで仕事をしていた。
・昨日、おとといは市の職員と座談会をして、午後からは吉野さんの朗読会を松山の里仁館で聞いていた。
・今日の午前中に中央図書館を利用していたが、３階が開架図書空間だと思っていたが、事務室と学習室になっていて、空間の規模に妥当性あるのか気になった。
・北庄内の拠点の空間として、閲覧や蔵書数含めてどれくらいの機能が必要になるか関心がある。
・電車待っている間などのちょっとした時間にどう時間を使うのかや、蔵書でない別の情報をどう管理したらいいのかが気になる。
・子供向け図書の支援について、新しい機関がどう機能されるのか大事。
・運営について、司書サポーターのような存在を住民に持たせて、住民が関わって交流しながらサポートしつつ、レファレンスできるような環境があれば次につながる施設になると思う。
・もてなしの心が大事だと思う。観光情報などいろんな情報が不備な時にレファレンスまでいかなくとも、補えるような施設になればいいと思う。そこから発展して英語や中国語など語学への対応の機能があればいい。

委　員

・イベント情報やU・Ｉ・Ｊターン情報などを集めてほしい。
・カフェ（制約を減らしてルール作りは市民が作る）があるといい。カフェのルールは中学生や高校生、大学生、子育て中のお母さんたちが作ったあと、最後に大人たちが付け加えるくらいにした方がいい。大人が言うと子供が意見を言えなくなるので、若い人たちの意見を先に聞いた方がいいのではないかと思う。
・ライブラリーセンター自体が情報発信の場として、全ての情報が集まるようにできるといい。
・オガール（岩手県紫波町の図書館）の選書はすばらしい。テーマ毎に分類されていて、イスがコーナーごとに置いてある。

・あんなこと、こんなことを知りたいと思った時に教えてくれるコンシェルジュの存在があるといい。
・勉強を教えてくれる学生の先生がいるといい（大学生→高校生→中学生→小学生の流れのように）。
・地域の方が先生になる講座や、子供が遊び方を教えてくれるこども先生講座があるといい。
・３０分～１時間くらいの託児サービスがあると、お母さんがゆっくり本を選べたり、読めるようになったりするため助かる。
・３、４歳くらいの子のための読み聞かせや習字、粘土遊び、お絵かきなどのアート活動をしている間にお母さん達がゆっくり本を読む時間を確保したらどうか。

委　員

・指導者を育成する場があればいいと思う。
・学生の学習の場の確保が必要である。
・ゆっくりお母さん達が本を借りられるよう、託児システムや小さい子供が遊べるスペースがあるといい。
・今日図書館を見て思ったのが、団塊の世代の男性が本を借りている人が多くてびっくりした。活躍できる場作りが必要だと思う。
・ハードの面になってしまうかもしれないが、駐車場からの動線（安全に図書館に行けることや、途中で雨に濡れないとか）が大事だと思う。

委　員

・授乳室が必要だと感じた。
・パソコン利用スペースが４人掛けのテーブル１つにイスが２つしかない。もう少し席があるといい。
・司書の職員同士の交流を活発にすると、本の情報交換をする機会やコミュニケーションが増えると思う。

委　員

・閲覧スペースや収蔵スペース、端末が少ない。
・カフェギャラリーなどの隣接空間の充実は大事だと思う。
・ライブラリー内のスペースの棲み分け（学習・くつろぎなど）を設計段階でして欲しい。
・駐車場が隣接していると、子育て中のお母さんたちは特に便利になると思う。
・蔵書の企画展示やディスプレイの充実は、スペースや司書機能があればもっとできると思う。
・あまり知られていないパソコンの横断検索の周知や拡充ができたら、専門書含めいろんな本を読めて勉強できる。
・パートの司書が勉強の機会を増やすことやレファレンス機能の充実が必要だと思う。
・絵本と児童書の充実は重要だと思う。
・親子の憩いの場（休めるところと子供を預ける場）が必要だと思う。
・お年寄りにも優しい大型活字本をもっと増やした方がいい。
・ヤングアダルトが喜ぶものが増えてほしい。
・郷土資料（酒田詩人の資料編は特にない）の拡充や本にまつわるイベント（講演会やワークショップなど）の開催があるといい。
・高校の図書委員が市民ボランティアとして、図書館の整備に参加や企画展示などをしてもらえたら楽しい。

委　員

・（今まででた意見をまとめると）図書館そのものの環境をどう作るか、内部の中にどういうものを作るか、それを運営する人の問題がある。ライブラリーセンターの機能としても、本を貸すだけでなく、問題が起きたときにどう解決するかのレファレンスが大事になってくる。レファレンスの専門や職員体制の問題も出てきている。
・今まで出た意見でニュアンスが共通している意見もある。市民がこの施設にどう経営参画できるか、

そのために環境を整備しなくてはいけない（学校と連携するなど）。みんなに支えられている施設だとイメージさせるために市民が変わっていくのが大事だと思う。
・酒田は北庄内の拠点として、庄内全域の情報提示ができるような施設になればいいと個人的に思う。
委　員
・赤ちゃんから高齢者までどう参画してもらうかが大事だと思う。
委　員
・教育委員会の事務室で職員体制をさっき見てきた。誰が司書の資格もっているか聞くと、２人くらいとのことだった。人数が少ないのはいいのだが、体制が弱いのを市民がどう関わって、改善して補っていくかを図書館が出来てからでなく、出来る前から考えていくのが大事になる。
委　員
・広報機能の拡充が必要だと思う。ホームページの充実や、新体制になったらイベントなどの周知をブログで行い、スマートフォンで閲覧できるようにすべきだと思う。
・学校図書館と公共図書館の連携はもっと可能性があると思う。
委　員
・学校図書館との連携が進んでいるため、大事にしていきたい。
委　員
・温海観光が進めている学校図書館改造のような、司書の人がいつでも出前を幼稚園・小中高にできるといい。司書機能の拡充により、パート（2 年後毎に代わる）ではなくて指導する立場になったり、専門家になったりして先生になる司書の育成システムがあるといい。
委　員
・先生になれそうな人が酒田にいるのに活用できていない。
委　員
・市がレファレンスの機能を期待しているかどうか。（図書館は）ただ、本を貸すだけの機関でなく、観光情報やいろんな情報を提供しているという認識にしなくてはいけない。
委　員
・24 時間 365 日開館や Wi-Fi の導入は可能であるならばありがたい。
・夜にお酒が飲めたり、図書館に泊まれたりができればいいと思う。
・学習の面では、地域の先生を活かせるようなラーニングコモンズがあるといい。
・地域の人の考えを繋ぐようなコンシェルジュの存在がいるといい。本だけでなく、市民が地域課題の企画書をあげて提案するのも面白いと思う。
委　員
・行政情報だけでなく、地域の防災情報やイベント、求人情報など図書館にきたら分かるという地域の人のニーズに応えられる機能が欲しい。
・子供の心の状態をみて、本を薦める機能（子供のこころの成長に則した司書機能）やそれをできる人がいるといい。
委　員
・コンシェルジュは市民の声を吸い上げて、発信できる存在であってほしい。
委　員
・ライブラリーセンターに来たら、なんでも情報が手に入って、解決する。
委　員
・図書館に行きたくても、交通手段がない人は交通機関るんるんバスを利用することが多いと思うが、返却は近くのコミセンで可能だったり、県立図書館で本を借りたり、返却は酒田でできるなどの周知をもっとした方がいい。
委　員

・これからライブラリーセンターを使う世代の若い子は発想が柔軟なので、市民向けのワークショップだけでなく若い人（中・高・大学生あたり）のワークショップもして欲しい。
・アンケートの選択肢の中から選ばせるのではなく、自由に考えさせる形がいいと思う。
・今の図書館を使わない人は何か不満があるから使わないのだと思う。（個人的に）オガールであればすごく行きたい。なぜ行かないのかというところにヒントがある
・高校生がこんな施設だったら行く、というものを作れればいい。

委　員

・若い人たちに意見を聞くことで、あなたたちの図書館を作るのだと市が示すことができる。若い人たちも大人が作ったのではなく、自分の意見や声が入っているのだと思えれば、愛着が湧くと思う。

委　員

・光陵高校の図書館はすばらしいのに、生徒たちはあまり使っていない。敷居が高いと思っているのかもしれない。図書館のディスプレイは行くたび変わっているし、お手本のようである。そういうことができる人に意見を聞いてもいいと思う。あとは、全員に聞くのは大変だと思うので、学校の図書委員など図書館に親しみのある生徒にまず意見を聞いてみてもいいと思う。

事務局

・ライブラリーセンターは出来てからもずっと続く話のため、今年中に全ての意見を聞かなきゃいけないわけではない。建物の建設も先の話のため、今回は基本計画を策定するが運営をしていけば、毎年あると思うし、出来てからも続く話だと思う。

委　員

・同じ 3000 ㎡でも、四角っぽい形なのか、ドーナツ型なのかなど施設の概要がわからないとイメージも持ちにくいと思う。

事務局

・今月（６月）下旬に決まる予定である。ドーナツ型のような提案もあるし、四角っぽい提案もある。事業者が決まれば大きく変わることはないと思う。

委　員

・最初の段階に若い子たち入れてほしい。いろいろ決まってから子供たちを入れるのとでは意味が違ってくると思う。

事務局

・ぜひ中高生の意見を聞いてほしい。酒田に限らないが、今の中高生は本を一か月に１冊も読まない。

委　員

・それはどうしてなのかを聞いてみたほうがいい。
・以前、おもてなし 200 人のワークショップをやってたくさんの意見が出たので、図書館でもしてみてもいいと思う。

事務局

・子供が音を出してもいいスペースは必要だと思う。夜の時間帯まではいらないと思うので、例えばだが、絵本の本箱がひっくり返って、夜は違う利用形態に変わるという仕掛けがあっても面白いのではないか。お酒が飲める空間があっても良いのではないか。

委　員

・絵本を読みたい大人も最近増えている。

委　員

・本を借りて家で飲んでもらったほうがいいのではないか。

【Ｂ班】ホワイトボードまとめ

●交流

・すきま時間に気軽に利用できるような場所にしたい。
・学校との交流、支援を増やすことで、学生が利用しやすい図書館にしたい。
・市民司書が創設できるといい。
・市民がルール作りをした制約の少ないカフェがあるといい。
・カフェやギャラリーなどの図書館と隣接する空間の充実によって、図書館以外に用事がある人も利用する機会を増やせる。
・図書館のＨＰ、ブログなどＳＮＳの充実が必要になってくる。
・ライブラリー内のスペースの分割（学習、くつろぎ、読書）ができるような様々なニーズに対応できる図書館だといい。
・大学生→高校生→中学生→小学生と勉強を教えあえる環境作りをしていくことで、世代ごとの交流が生まれる。

●子育て

・図書館に短時間（３０分～１時間）の託児サービスがあると親子連れで通いやすい。
・子供だけのイベントがあると、母親が本をゆっくり読む時間を確保できる。
・乳幼児の遊べるスペースがあるといい。
・親子の憩いの場が欲しい。
・絵本、児童書をもっと充実して欲しい。

●学び

・団塊の世代の方が活躍できる場作り、ニーズへの対応が必要である。
・学生の学習の場の確保が必要である。
・地域の人が先生になる地域先生講座ができたらいい。
・子供が先生になって実施する「子ども先生講座」を作りたい。
・中高大学生の声をもっと拾って意見を取り入れることで、「自分たちの施設」と思ってもらえるようにしていきたい。

●情報発信

・地域のコンシェルジュを活かす。
・レファレンス専用のコーナーを作ることで、利用者が利用しやすい図書館にしたい。
・「本」にまつわるイベント、ギャラリーを充実させたい。
・司書の市民、高校生ボランティアを活用したい。
・高齢者向けの大型活字本（点字本や音訳ＣＤも含めて）を増やしたい。
・地域の情報が集まるような図書館にしていきたい。
・地域間での連携を多くしていきたい。
・北庄内の情報の収集の場となる役割を担わせる。
・蔵書の企画展示、ディスプレイの充実、魅力アップをはかる。

●その他

・県内、市内の蔵書のパソコンによる横断検索の周知をする。
・駐車場～図書館までの動線（利便性、安全性）で、人を呼びやすくする。
・選書（テーマごとのコーナーを作る）などの工夫をする。
・パソコンの持ち込みができる部屋が増えるといい。

○全体意見交換会

Ａ班について事務局より発表
Ｂ班について事務局より発表

〇全体を通して

委　員

・今日出た意見がどう活かされていくのか楽しみである。

委　員

・図書館に関わったという経験で図書館に愛着を持つ人が多くなるといい。

委　員

・市民の声を聞こうとする行政の姿勢がありがたい。今日みたいに４つのキーワードに絞られていると話しやすい。

委　員

・利用価値を高め、伝え、工夫していく場にしていきたい。施設ができてからもあり方の検討が大事になってくる。

委　員

・今日見学してみて図書館が身近になった。通ってみたい。酒田ＣＰもそういう施設にしていきたい。

委　員

・新しい手法の委員会楽しかった。施設ができてからも常に変わり続けることが大事。市民のパワーとコンシェルジュを合わせて、酒田ならではの図書館ができればいいと思う。

委　員

・人に会える場所というのが私の中で大きい。人と人とが直接交流できる場となればいいと思う。

委　員

・幼児から高齢者まで使える図書館にしていけるようにしていきたい。

委　員

・久々に図書館を見学して、また利用してみようかと思った。意見が反映されたらお母さんたちも嬉しいと思う。

委　員

・図書館の枠を越えた複合施設にしていきたい。中・高・大学生を巻き込んで「自分たちの施設」と思ってくれるようにするのが大事だと思う。

(6) アンケート調査（案）について（資料９に基づいて事務局説明）

委　員

・アンケートの別紙１は中学生には内容が難しいのではないか。別紙２の高校生向けのアンケートは自由記述の欄を要旨の半分くらいに広げて、〇をつけさせる項目は必要ないと思う。自由な発想を聞き出せるようなアンケートにしたほうがいいのではないか。

委員長

・意見として承る。

(7) 先進地視察について（資料 10 に基づいて事務局説明）

(8) その他

なし

４　閉　会

酒田駅周辺整備事業　提案事業計画概要

１．事業コンセプト ～光の湊～

北前船西廻り航路で栄え、産業・交流都市の遺伝子と共に歴史と伝統文化が受け継がれる酒田。この酒田の遺伝子を「湊」という言葉で表現しました。

酒田のもう一つの遺伝子ともいえる本間光丘の哲学である「公益の心」は、未来への道しるべ（灯台の光）として、「光」という言葉で表現しました。

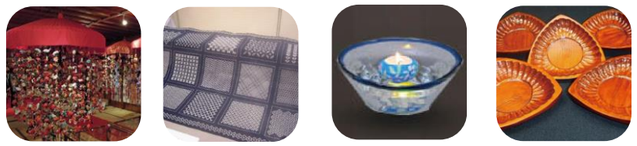
２．酒田らしさについて

今回計画する再開発ビルでは、酒田の文化・歴史に触れ、体験をし、酒田の魅力を深く理解できる施設を配置して、それぞれの施設毎の機能が連携し、多くの情報が行き交う居心地の良い場所です。

（駅前広場）

（ライブラリーセンター）

また、施設計画では、傘福、刺し子、絵ろうそくといった酒田の伝統工芸品が散りばめられており、酒田らしさを施設全体でアピールします。



３．提案事業の概要

事業計画提案者	西松建設株式会社
想定事業手法	第一種市街地再開発事業（西松建設のＳＰＣによる個人施行を想定）
所在地	旧ジャスコ跡地：山形県酒田市幸町一丁目 28-31　他５筆 隣接街区：山形県酒田市幸町一丁目 19　他 23 筆
区域面積	約 1.4ha
建築敷地面積	旧ジャスコ跡地：6,161.81 ㎡　　隣接街区：3,582.33 ㎡
土地所有者	旧ジャスコ跡地：酒田市　　隣接街区：12 名（ホテル含む）

■施設計画概要

敷　地	A 敷地	B 敷地	C 敷地
棟名称	A 棟	B 棟	C 棟
敷地面積	4,896 ㎡	1,941 ㎡	1,524 ㎡
建築面積	3,892 ㎡	1,482 ㎡	665 ㎡
建蔽率	79.5%	76.3%	43.6%
延床面積	10,135 ㎡	7,117 ㎡	5,000 ㎡
容積対象面積	9,930 ㎡	7,075 ㎡	4,443 ㎡
容積率	202.8%	364.5%	291.5%
階数	地上７階・地下１階	地上５階	地上 10 階
高さ	31.0m	19.1m	30.0m
構造	鉄骨造	鉄骨造	鉄筋コンクリート造
主な用途	ライブラリーセンター 観光情報センター ホテル・バンケット ブック＆カフェ、店舗 駐車場	店舗 駐車場（242 台） 駐輪場（80 台）	集合住宅（54 戸）

4．公共施設

ライブラリーセンター、観光情報センター、広場、駐車場、バスベイからなる酒田コミュニケーションポートは、それぞれの機能が連携し相乗効果を発揮した居心地の良い空間を計画しています。

酒田コミュニケーションポートと立体駐車場の大部分は、酒田市が取得し管理運営を行う予定です。

（コミュニケーションポート内観）

（駅からのコミュニケーションポート外観）

5．ホテル・バンケット

120 室の客室とレストランを備える、上質な空間を備えたホテルを計画しています。また、ホテル２階部分はバンケットとして、市民や企業が普段から親しむ集いの場としています。

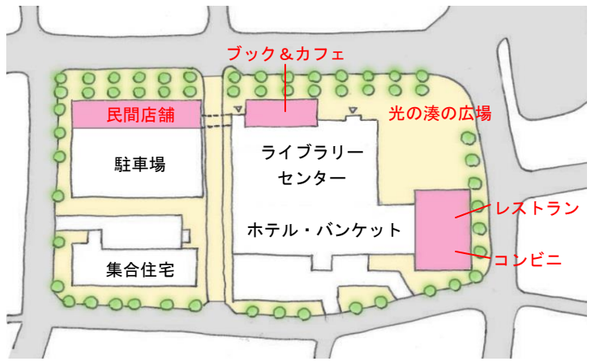
ホテル・バンケットは地元のホテル事業者が取得し、運営を行う予定です。

（ホテルロビー）

（バンケット）

6．店舗

再開発ビルの１階部分には、一部店舗区画を計画しています。コンビニや酒田らしいサービスを提供するテナント等の誘致を今後進めていきます。

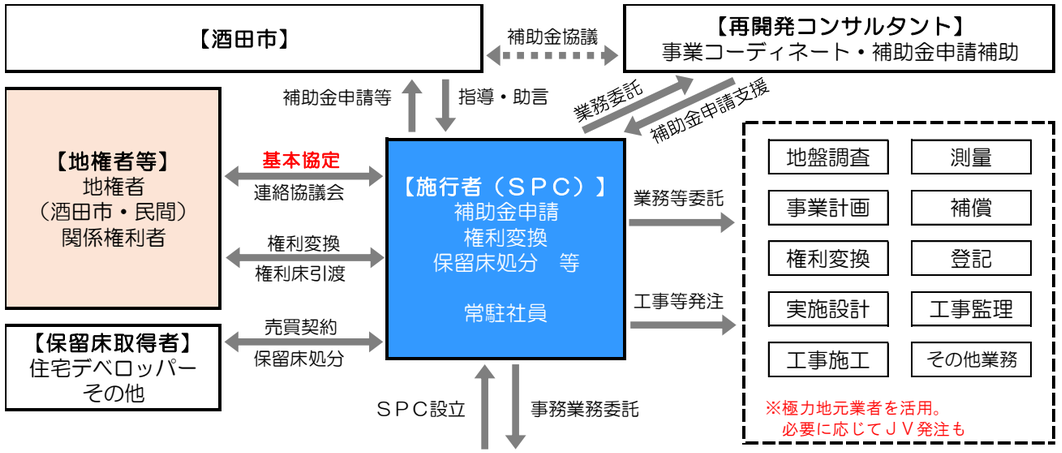


7．分譲マンションの概要

Ｃ敷地には分譲マンションを計画しています。全戸駐車場付きの 54 戸を計画しています。駅前での質の高いライフスタイルを提供します

（分譲マンション外観）

8．施行体制について



【西松建設】事務局業務・税務・法務・商業・不動産登記・調査計画・協議調整等	
［事務局・事業計画担当（出向）］	［計画担当（出向）］
再開発プランナー･宅地建物取引士等の有資格者が担当	一級建築士・マンション管理士 管理業務主任者等の有資格者が担当

9．全体資金計画

総事業費	約 102 億円	公共施設購入額	約 27 億円

※提案時点での概算額です。

10．事業全体の予定スケジュール

基本協定の締結	平成２８年９月頃
都市計画決定	平成２８年１０月頃
基本設計等作成	平成２８年１１月頃
実施設計等作成	平成２９年６月頃
工事着手	平成 30 年４月頃
工事完成	平成３３年３月頃

整備計画方針の実現を目指すために効果を発揮する提案

駅前の象徴となる場所「本の蔵のパサージュ 」をつくります

圧倒的な本とやわらかい自然光につつまれた場所

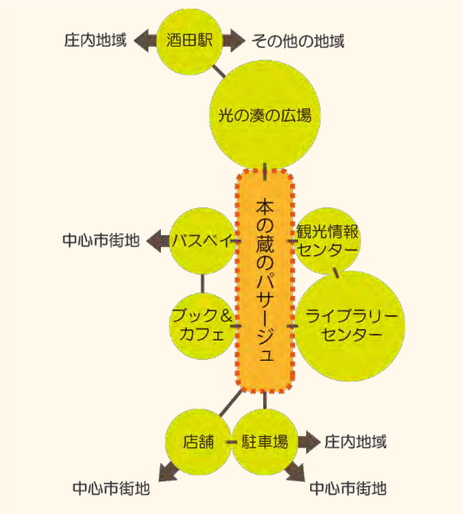
- 「本の蔵のパサージュ」は圧倒的な本につつまれたライブラリーセンターの中心になる小路（こみち）です。
- 吹抜けの高窓から明るくやわらかい自然光が降り注ぐ気持ちの良い場所です。

旬な情報があつまる小路

- 新刊、雑誌、企画展示、観光情報など、旬な情報があつまる「活きた小路」です。

まちの通り道

- 駅前と隣接街区を結ぶ屋内の通り道になります。同時に駐車場やバスベイを結ぶ「中心市街地への通り道」でもあります。



居心地の良い『あいだ』の空間

- 観光情報センターの検索コーナーやブック＆カフェの一部としても機能する「居心地の良い『あいだ』の空間」です。
- 本の蔵のパサージュで手に取った新しい情報を、隣りのカフェや閲覧スペースで、ゆっくりと味わうことができます。

酒田市民みんなのサードプレイス

- 本の蔵のパサージュの周りには、落ちついた場所、賑やかな場所など、多様な世代の多様な利用者それぞれにとってお気に入りの場所が散りばめられます。目的のある人も、そうでない人も、心地よい時間を過ごすことができます。

見る、見られるシーンをつくる

- 「本の蔵のパサージュ」は、吹抜け空間を介して多様な閲覧スペースにつながり、来館者の間に見る・見られるシーンを多くつくることで、新しい交流・発見の機会をつくります。

街からも、人々が集い時を過ごす様子が見える、「出会いと交流の場」

- 「本の蔵のパサージュ」は「光の湊の広場」に大きく開いたカタチとし、そこに集う人々の様子が外からも見えるようにします。酒田駅前が「ひとびとが集い、心地よく過ごせるまち」であることをアピール、まちに賑わいが広がります。

民間施設を含む他の施設との機能の連携のあり方について

施設全体がブック＆カフェに ～ゆっくりとその場所を過ごす滞在型図書館～

「ゆっくり寛ぐ」「文化を楽しむ」「交流を育む」「ライフスタイルや価値観が交わる」

- 書架、レファレンス、企画展示スペースなどの機能同士を注意深く配置し、それら機能と機能のあいだに、カフェや自由なスペースなどの、居心地のよいスペースを散りばめています。
- さながら施設全体がブック＆カフェになったような、そんな居心地の良い空間で、利用者誰もがお気に入りの場所で思い思いに過ごせるような、滞在型図書館を提案します。

ライブラリーセンター１階レイアウト

１階開架書架　約　5万冊
１階閉架書架　約 10 万冊

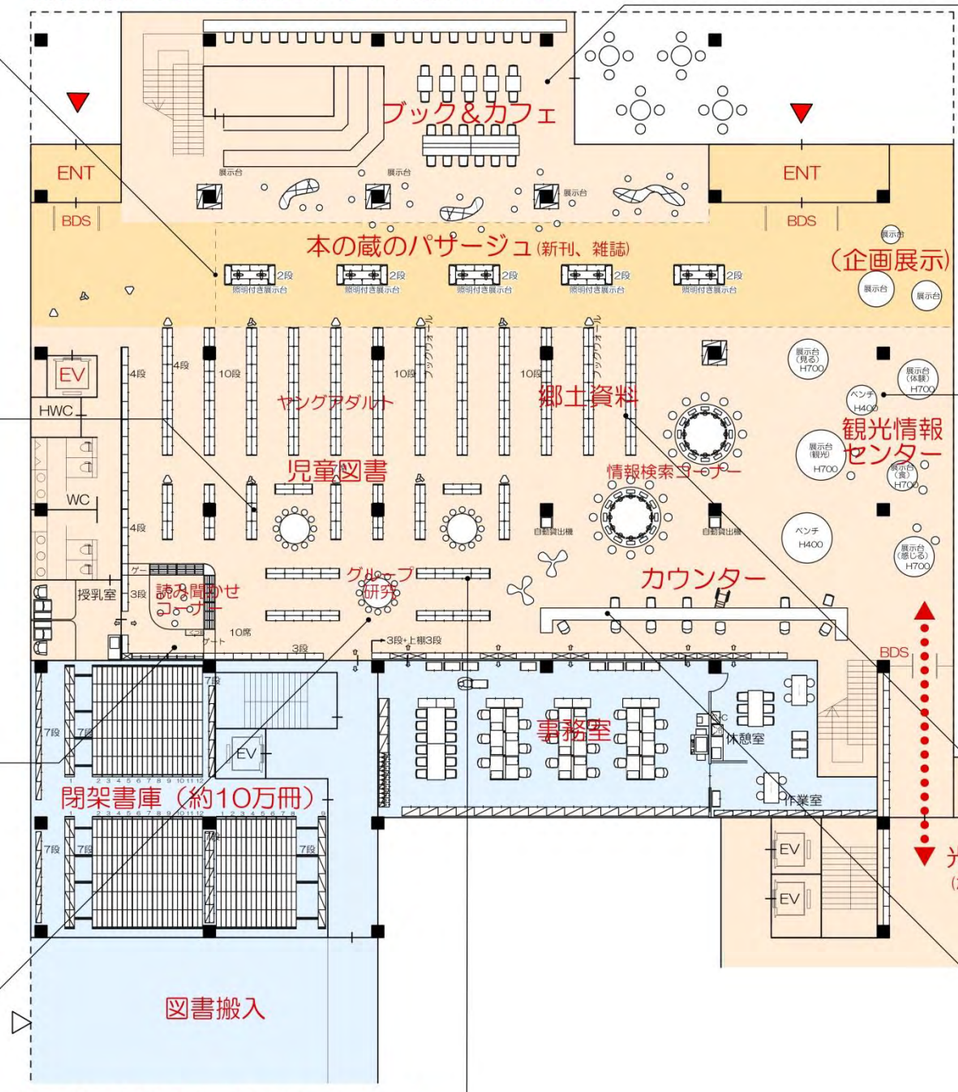
みんなのサードプレイス「本の蔵のパサージュ」

視認性の高い「児童図書コーナー」

親子で安心「読み聞かせコーナー」

放課後の秘密基地「グループ研究コーナー」

情報発信と交流を前提としたやや賑やかなフロア



各世代に対応した「児童図書コーナー」

居心地の良い「ブック&カフェ」

酒田の過去・現在・未来を知る「観光情報センター」

観光情報センターと繋がる「郷土資料コーナー」

図書・観光が連携した一体型カウンター

ライブラリーセンター２階レイアウト

２階開架書架　約 15 万冊

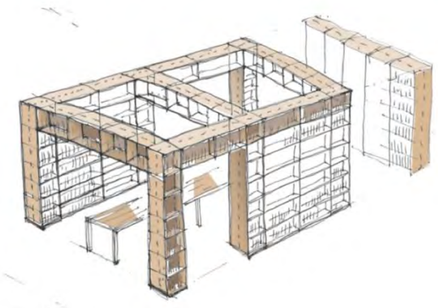
充実した閲覧休憩ベンチ

リフレッシュに最適「くつろぎスペース」

使い方は人それぞれ「個室ブース」

うるさくしても大丈夫「わいがやルーム」

打ち合わせができる「ビジネス向けスペース」

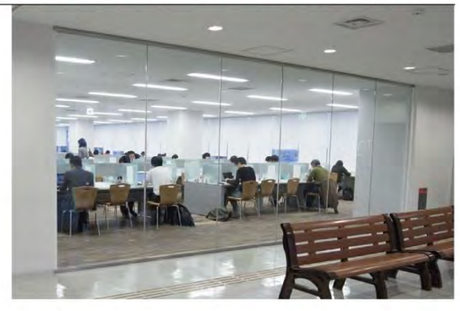


調べ物に最適「本に囲まれた閲覧席」

ジャンルごとに分類された「一般図書」

本棚の中の「静寂学習スペース」

集中して学習「静寂閲覧スペース」



未来を築く人材育成、交流支援機能の充実について

きめ細かい世代対応で「情報の湊」を使いこなす酒田人を育てる

乳児・幼児からヤングアダルトまで、各世代に向けたコーナーを用意

- 乳児・幼児からヤングアダルトまで各世代に向けたコーナーを１階に整備し、それぞれがゆるやかに繋がる計画とします。
- 書架の配置や空間構成は、幼児からヤングアダルトまで段階的な構成とします。年齢・興味に応じた利用に始まり、目的に応じて膨大な知識を活用できる**「情報の湊を使いこなす酒田人」へとユーザーを導く**施設を目指します。

① 幼児向けの読み聞かせコーナー
子供だけでなく、親にとっても安心して遊ばせることができるスペースです。

② 自習・グループ学習のスペース
酒田駅を利用して通学する生徒にとっても、時間を有意義に活用できるスペースです。

③ 酒田の歴史・文化の継承

④ 郷土資料コーナーは、ライブラリーセンター利用者の誰もが目にする場所にあり、郷土への興味を育みます。

⑤ 小学生向け「ライブラリーセンターの使い方」サポート
「施設見学」でグループ学習における活用方法をレクチャーするなど「将来の図書館ユーザー」の育成を提案します。

⑥ 小学生のグループ学習スペース
小学生のグループ学習を大学生がサポートするなど、教育機関同士の連携により、高度な利用が可能となります

児童の放課後の居場所づくり
～ライブラリーセンターが児童の「寺子屋」に～

- 児童にとって本と触れ合ういわば「図書遊び」の場として、プログラムや催事を展開することにより、ライブラリーセンターは、**知的な刺激に溢れた放課後の居場所**となります。

本の蔵のパサージュは、出会いと交流の舞台となる場所

- これら多様な世代に向けたスペースは、１階に配置され本の蔵のパサージュでつながります。
- 本の蔵のパサージュは、乳児、幼児から、ヤングアダルト、高齢者まで、**多様な世代が出会い、お互いの活動に触れることができる「出会いと交流の舞台」**です。

蔵書数、企画展示、学習施設、レファレンス、ビジネス支援等の多様な読書スタイルの提供、多様なニーズへの対応について①

お気に入りの場所が見つかる図書館

いろいろなアクティビティ（利用のしかた）のバリエーションに対応する

- 本を空間の主役とした多様な「書架スペース」のほか、閲覧スペースは「情報発信と交流を前提としたやや賑やかなフロア」「プレゼンなど音を出す前提のスペース」「会話を許容するスペース」「くつろぎを前提とした静かなスペース」「静寂を求める人のスペース」にゾーニングし、**性格が異なる多様なスペースを成立**させています。
- グループによる利用や議論や発表のためのスペースや、居場所が見つかる多様な個人向けスペースを用意しています。

市民活動の場としても使える グループ学習スペース

- １階の「グループ研究コーナー」や「情報検索コーナー」、２階の「わいがやスペース」は、グループによる利用や議論を含む**賑やかな利用を許容できるスペース**です。
- 多様な情報を利活用できる市民活動の場として、あるいは新たな交流と価値を生む活動の場として機能します。

居場所が見つかる個人向けスペース

- 眺めがよく居心地のよい閲覧・休憩スペースや、気兼ねなく集中できる個人ブースなど、多様な閲覧スペースを用意
- **来た人の目的に合った居心地の良い場**をつくることで、誰もが思い思いの使い方ができるライブラリーセンターとします。

蔵書数、企画展示、学習施設、レファレンス、ビジネス支援等の多様な読書スタイルの提供、多様なニーズへの対応について②

本がたくさんある図書館、誰もが使いやすい図書館

本の蔵のパサージュを利用する

- 本の蔵パサージュの書架は**床から天井までの書架**です。読むことが少ない本は、書架の上段に配することによって、プラスアルファの蔵書数を確保できます。

一般図書はワンフロアにまとめる

- 一般図書は参考図書や郷土資料を含め、**ワンフロアにまとめて配置**します。上下階の移動がないので資料が探しやすい図書館です。

蔵書数、企画展示、学習施設、レファレンス、ビジネス支援等の多様な読書スタイルの提供、多様なニーズへの対応について③

ビジネス利用のための 情報に溢れたオープンオフィス

オフィスになるライブラリーセンター

- 在酒ビジネスマン、来酒ビジネスマンの双方にとって、利用価値のあるスペースを提供します。
- ２階には、会話を許容できる**「打ち合わせテーブルがあるスペース」**、ビジネス向けスペースがあります。
- ビジネスマン向けの情報センターとして機能するよう、情報検索コーナー（インターネットやオンラインデータベースへのアクセス・プリントアウト利用が可能）、リサーチアシスタント（他館検索広い情報にアクセスし、利用者の情報収集を補佐する）、**オフイススペース**（Wifi、プロジェクター、雑談・携帯ＯＫなど、議論や打ち合わせのための環境が整っている）などが展開可能なスペースを提案します。

情報集積　～産・官・学　連携の酒田アーカイブ～

- 酒田をフィールドとしたビジネス展開のために、郷土資料の集積だけでなく、「まちづくり」、「産業振興」、「農業振興」と「酒田・庄内」をキーワードに、**産・官・学を横断するアーカイブの構成**を提案します。
- 酒田まちづくり、酒田研究、酒田ビジネスのための知識の集積と利用可能な環境づくりをおこないます。
  例）統計データレファレンス、地方活性化関連研究論文レファレンス、地産地消研究論文レファレンス

情報発信
～事業者の展示・プレゼンテーションスペース～

- ライブラリーセンター内には、本の蔵のパサージュや２階のわいがやスペースなどプレゼンテーションの場が用意されています。
- 光の湊の広場でのイベント、バンケットで開催される各種講座などは地元事業者にとって展示・プレゼンテーションの場としての価値も持ち合わせています。
- 市民や県外客の集まる駅前において、ライブラリーセンター光の湊の広場、ホテル・バンケットなど、**事業者が展示・プレゼンテーションを行う場として価値がある場所**が集積します。

学びの場、子育ての場、交流の場、情報発信の場など多様な機能を持った新しいスタイルの図書館のあり方について

人と人・情報が交わり、刺激し合う生（ナマ）の場所

バーチャルな世界では感じることができない、実体験に溢れた「本につつまれた場所」

- ライブラリーセンターは、情報だけでなく、本を探しに行くことで、目的外の本や情報に出会う、他の人や活動にふれあうという**「実体験」を提供する場**です。そのためには「実際に体験できる豊かな空間」が必要です。
-

バーチャルな世界だけでは得られない、ヒト・モノ・コトによる刺激

- ライブラリーセンターは、利用者に「人と本」という**「一対一の関係」にとどまらない豊かな体験**を提供します。
- 「未来を担う人財の育成」のためには、「人との出会い」、「人が発散する情報や価値観とのふれあい」そして、共鳴し、摩擦し、感化される、そういった体験の蓄積が大切と考えます。
- そのためには、**実際に触れ体験を共有できる紙の本や、実体験を共有できる「空間」がどうしても必要**であると考えます。
- 必要とされる「少しにぎやかで刺激にあふれた場所」が集まってライブラリーセンターがつくられています。

知の消費ではない、知のリレーが行われる 市民活動の場

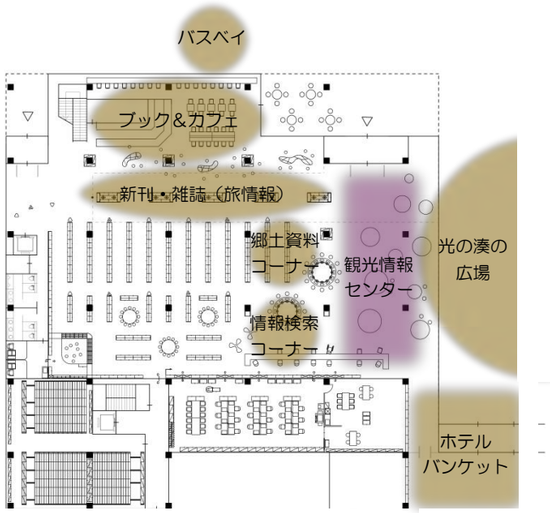
- ライブラリーセンターが目指すのは、「知のリレーの場」であって、「知の消費の場」ではありません。そのための機能が情報発信機能です。
- 例えば、プロである司書が企画し、市民が参加した知的活動が行われ、活動の成果を発表するなど、**「知のリレー」による「知の深まり」**を導くため必要な機能をおさめています。

整備計画方針の実現を目指すために効果を発揮する提案について①　駅前の観光案内、情報発信機能の向上について

ライブラリーセンターと融合した酒田らしさ満載の玄関口

視認性に優れ、駅や駐車場から迎え入れる配置

- 観光情報センターは「光の湊の広場」や「本の蔵のパサージュ」に面した視認性の良い場所に配置します。酒田らしい玄関口の演出や交通結節機能との連携によって、わかりやすくアクセスしやすい施設とします。



ライブラリーセンターの膨大なアーカイブを活用

- ライブラリーセンターと窓口や事務室を共用し、レファレンスサービスの連携を図るなど、ライブラリーセンターの膨大なアーカイブを活用できる施設とします。
- ライブラリーセンターの膨大なアーカイブの中から、利用者の興味に応じて、酒田体験のよき伴侶となるような書籍や情報を紹介できます。
- より深い情報に触れることで、酒田をより深く味わい、新たな魅力を発見し、「より深く知りたい」「また酒田に行きたい」と思うきっかけづくりを助けます。

施設間連携を活かした、観光コンシェルジュによるレファレンスサービス

- 酒田の魅力に精通した観光コンシェルジュの配置を提案します。
- 観光コンシェルジュは、講習等によって特定分野の知識や規定を理解した民間出身者やボランティア等の集団とすることで、きめ細かく多様なサービスの提供が可能になると考えます。
- 郷土資料に精通したライブラリーセンターの司書によるレファレンスとの連携によって、「酒田の魅力」を最大限に発信できます。
- 施設の魅力や目的地への経路を提供する「案内」、モデルコースや推奨観光資源などの情報を提供する「コース提案」、利用者の興味や体力等に合わせて、相談しながら唯一のコースを組み立てる「オーダー」、施設や食事の予約やレンタカー、タクシー等交通手段の手配代行や実際の行程で随行案内する「フルオーダーガイド」など、多様なサービスの展開も可能となり、より深い酒田体験を提供できます。

駅、バスベイに面したブック&カフェとの融合

- 玄関口機能と交通結節機能を備える「光の湊」のブック&カフェは本と緑につつまれた、観光客にとっても居心地の良い場所です。
- 電車やバスを待つ時間、観光情報センターで得た情報を、「コーヒーを飲みながら吟味する」、「疑似旅行体験に浸る」など、酒田の情報、酒田の人にふれあいながら寛ぎの時間を過ごすことができます。

整備計画方針の実現を目指すために効果を発揮する提案について②　民間施設を含む他の施設との機能の連携のあり方について

「光の湊」相互の機能を融合し酒田の魅力を発信します

「光の湊」は情報が集まる情報の湊　～酒田の「旬」を発信する情報発信機能～

- 観光情報センターは、「光の湊の広場」や「本の蔵のパサージュ」、そしてホテル・バンケットなど民間施設の共用空間である「光の湊のロビー」と密接につながる空間構成となっています。
- 「本の蔵のパサージュ」の企画展示、情報検索コーナーや郷土資料コーナーなどと連携して、多元的・重層的な観光情報の提供を行うこともでき、より訴求効果の高い情報発信をおこなうことが可能になります。

まちを巡りたくなる　～「光の湊の広場」がまちへの発信力を高める～

- 目の前の「光の湊の広場」での酒田の魅力を発信するイベントなど、「酒田の『旬』」を活きた状態でプレゼンテーションでき、酒田の魅力の発信力をさらに高め、まちへの回遊を促します。

ホテル、バンケットと直接つながる

- ホテルとバンケットは、観光の起点として駅周辺地区のまちづくりと回遊性の向上に貢献できる機能です。「光の湊のロビー」は観光情報センターと直接つながり、連携案内など玄関口機能の更なる強化を図ります。
- 「ホテルのフロント・コンシェルジュ機能」「ライブラリーセンターのレファレンス機能」「観光情報センターの窓口機能」が三位一体となった、複数のチャンネルを活かした重層的な観光案内が実現します。

整備計画方針の実現を目指すために効果を発揮する提案 ①　民間施設を含む他の施設との機能の連携のあり方について

酒田駅前を「心地よい時間の流れを感じる寛ぎの場所」へ

駅前広場から連続した広場配置
- 広場（光の湊の広場）は整備区域北東角にまとまって配置し駅前広場とゆるやかにつながります。

1,000 ㎡以上のまとまった広さを確保
- 公共施設として確保された広場の他、一体利用できるピロティ等の部分を含めると、1,000 ㎡以上のオープンスペースが確保されることとなります。

酒田オリジナルの光につつまれる広場
- 刺し子や焼き杉を使った酒田らしい照明柱を「光の湊の広場」を包むように配置します。

ブック＆カフェやレストランなどが面する、心地よい時間の流れを感じる緑豊かな広場
- ブック＆カフェやレストランなど、豊かな時間を提供する場所が「光の湊の広場」を囲むように配置されます。ケヤキ並木の起点となる駅前の広場が「心地良い時間の流れを感じることができる寛ぎの場所」となります。

酒田コミュニケーションポートの賑わいがあふれる広場
- 「本の蔵のパサージュ」も顔を出し、イベントがない時でも賑わいが感じられる広場です。

ホテルのロビーなど上質な空間が面する広場
- ホテル・バンケットのエントランスでもある「光の湊のロビー」が面する上質なくつろぎの空間の前庭でもあります。大切なお客様との待ち合わせもできる「酒田の新しい玄関口」です。

酒田駅前のシンボル、「ケヤキ通り」の起点になる広場
- 「光の湊の広場」を起点とした県道沿いは２列のケヤキ並木とし、シンボルロードとして緑豊かな景観をつくります。街なかへ導く起点となり回遊を促します。「光の湊」はその「玄関口」＝陸の『湊』となります。

整備計画方針の実現を目指すために効果を発揮する提案 ②　イベント等に活用できる空間、景観形成や憩いの場としてのあり方について

「光の湊の広場」は酒田の「メインステージ」

市民にとって特別な場所になっていきます
- 光の湊の広場は、各種イベントが開催される「ハレの場」として利用されます。
- そこは、事業者のイベントにとどまらず、市民活動の発表会や、市民参加型のイベントも行われる、「市民にとって特別な場所」として、将来にわたって愛されることを目指します。

幅広いイベントに使える、まとまった広さの広場
- 光の湊の広場の形は約 25m×35mの矩形とし、イベント時には「食品提供ブースと休憩・テーブルゾーン」あるいは「ステージと客席ゾーン」または「軽トラック市場」など、多様な使い方に対応できる形状としています。イベント用電源や給排水設備等を予め整備することで、イベントの開催コストを低減、「使える」イベントスペースを整備します。

光の湊各施設との連携によるイベントの魅力向上
- 光の湊の広場で開催されるイベントは、隣接するカフェやレストラン、観光情報センターや、本の蔵のパサージュなど豊かな時間を提供するサービス施設と連携した展開が可能です。
- 単なる広場でのイベントの開催にとどまらない、多元的な訴求が可能で、参加者に、より印象に残る体験をもたらします。

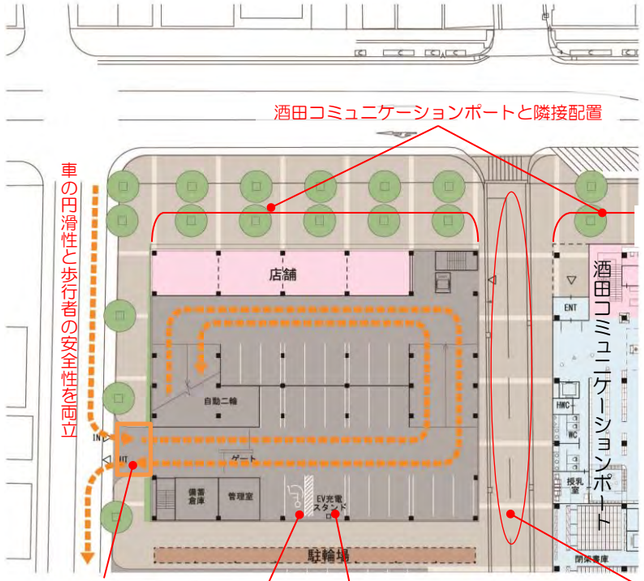
普段は、自由に使える憩いの場所
- イベントがない時は、移動販売車が入ってきたり、レストランやカフェの屋外席が設けられたりするフリースペースです。

管理組合･運営協議会が主体となった賑わいづくり
- 光の湊の広場で行われるイベントは、民間事業者も含めた「管理組合･運営協議会」が主体となって、日常的にイベントを実施することで、賑わいづくり・情報発信を積極的に行います。

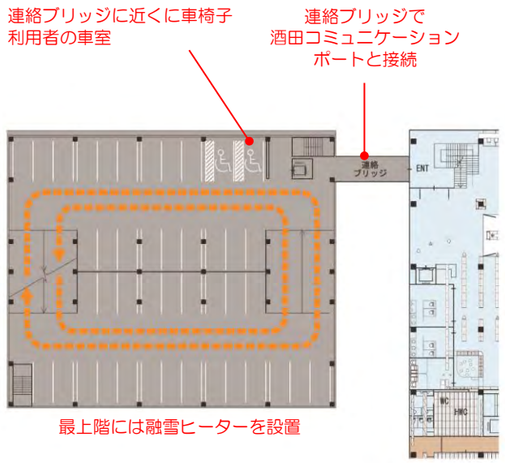
＜イベント例＞
- ライブラリーセンターの企画展示のテーマに沿ったイベントや本のイベント
- 観光情報センターやホテル・バンケットのエントランスホールと連携し、魚、酒、フルーツなどの、「酒田の食」や、酒田の物産をテーマにしたイベント
- レストランやカフェも連携して展開する「酒田の食」をテーマにしたイベント
- 野外コンサートや高校生のダンスコンテスト等の仮設ステージを使ったイベント
- 酒田の雛祭りや七夕祭り、クリスマスの光の湊イルミネーション等、季節を感じるイベント

整備計画方針の実現を目指すために効果を発揮する提案①

安全で使いやすい駐車場と台数の確保



1 階



2 階

駐車場は酒田コミュニケーションポートに隣接して配置

- 駐車場はＢ敷地に店舗との複合施設として整備し、管理区分が明確になる区分所有建物とします。

不特定多数のための使いやすい駐車場

- 駐車場は自走式のスキップタイプ５層６段＋融雪とし、242 台を確保します。
（酒田市取得駐車場 200 台＋C 敷地集合住宅用 42 台　車室 2,500×5,000　車路幅 6,000）

車の円滑性と歩行者安全性に配慮した出入口

- 車両出入口は整備区域の西側道路に設置します。主要道路である県道からの離隔も確保し、駐車の円滑性と歩行者の安全性を両立した計画とします。

車椅子利用者のための車室

- 車椅子利用者のための車室は外部への歩行者出入口に近い位置と、酒田コミュニケーションポートへの連絡ブリッジに近い位置に配置します。

ＥＶスタンドの設置

- ＥＶスタンドを設置し、酒田コミュニケーションポート利用中の継ぎ足し充電を可能にします。

連絡ブリッジ

駐車場２階で連絡ブリッジによって酒田コミュニケーションポートと繋ぎます。気候の厳しい季節でも快適に施設や駅方面にアクセスできます。

雪の季節も利用できる駐車場

- 駐車場の最上階には、融雪装置を設置し、雪の季節も安全に利用することができます。

整備区域中央の道路は歩行者空間にします

- Ａ敷地とＢ敷地の間の区画道路は、サービス車両のみの出入として計画しており、歩行者の安全が確保された歩行者優先道路として整備することを提案します。

整備計画方針の実現を目指すために効果を発揮する提案②

賑わいあるヒューマンスケールな「街なみ」

県道沿いに店舗を配置

- 駐車場の１階は店舗とし、隣接Ａ敷地のライブラリーセンター、ブック＆カフェと共に通りの賑わいをつくり、まち歩きしたくなる「街なみ」を創ります。

ヒューマンスケールデザイン

- 県道沿いは２列のケヤキ並木を連続させ、隣接Ａ敷地とともに目抜き通りの緑の景観を形成します。建物の外観はライブラリーセンターの２階建ての高さに合わせたデザインとすることで圧迫感を軽減、気持ちの良い歩行者空間をつくります。

民間施設を含む他の施設との機能の連携のあり方について①

「玄関口・交通結節・市民賑わい・まちなか居住」４機能を支える駐車場

人の出入口は駅や全ての施設に近い場所にします

- 駐車場のエレベーターや人の出入口は、目抜き通り沿道で、整備区域のほぼ真ん中に設置します。駅やバスベイにも近く、他の交通機関への乗り換えもしやすい計画とします。

ブック＆カフェのある駐車場

- 駐車場は、２階の渡り廊下で「本の蔵のパサージュ」に繋がり、さながらブック＆カフェのある駐車場として利用できます。
- ブック＆カフェ、観光情報センター、情報検索コーナー等がある「本の蔵のパサージュ」によって、日々の通勤・通学や送迎の待ち時間が「単なる乗換」ではなく、「駅前の賑わいに触れ、旬な情報に触れながら過ごす日々」に変わります。

民間施設を含む他の施設との機能の連携のあり方について②

ゲート管理の活用による 民間との共同管理や、利用エリアの拡大

駐車場の共同管理

- 駐車場は、台数按分による酒田市と住宅管理組合法人の共有とします。その管理は機械式の入出庫管理や料金管理（時間貸相当分）を行うことで、コストや収入を持分（台数割合）に応じて按分することが可能となり、住宅居住者による利用と一般の時間利用とを区分した適切な管理が可能です。

駐車券システムの共通化による駐車場利用者の回遊促進

- 当駐車場利用者への料金割引サービスに用いる駐車券や駐車料金割引券を、中心市街地に立地する他の公共駐車場と共通化することによって、利用対象エリアを区域内だけでなく隣接商店街、中心市街地全体へと広げることも可能です。この場合、当駐車場利用者の市内各所への回遊を促すことができると考えます。

整備計画方針の実現を目指すために効果を発揮する提案について

交通結節機能を強化した象徴的なバスベイ

「光の湊の広場」の一角にあるバス停

・既存の周辺のバス停を集約し交通結節機能を強化、「バスベイ」を「光の湊の広場」の一角に位置付けることで酒田駅とのつながりを強めると共に、酒田市民にとって特別な場所として象徴的なバスベイになります。

他の交通手段との連携に配慮

・指定されたバスベイの位置が交通結節機能強化に資するよう、駐車場の歩行者用出入口を近くに配置します。

民間施設を含む他の施設との機能の連携のあり方について

玄関口機能、市民にぎわい交流機能を高める居心地の良いバスベイ

バス待ちも快適なひとときに

・バス待ちの時間を豊かに過ごせるように、バスベイの周辺にケヤキ並木やブック＆カフェを配置します。

・待ち時間がある時は、ブック＆カフェ、本の蔵のパサージュや観光情報センター、光の湊のロビーも気軽に利用でき、季節に応じて、屋内や屋外で過ごすことができます。

コンビニエンスストアによる発券

・隣接するコンビニでは、高速バスのチケットが発券可能で、利便性の高い乗り場となります。

観光起点としてのサービス

・観光情報センターやホテルでは「バスで廻る酒田マップ」を発行し、円滑で楽しい旅を支援します。

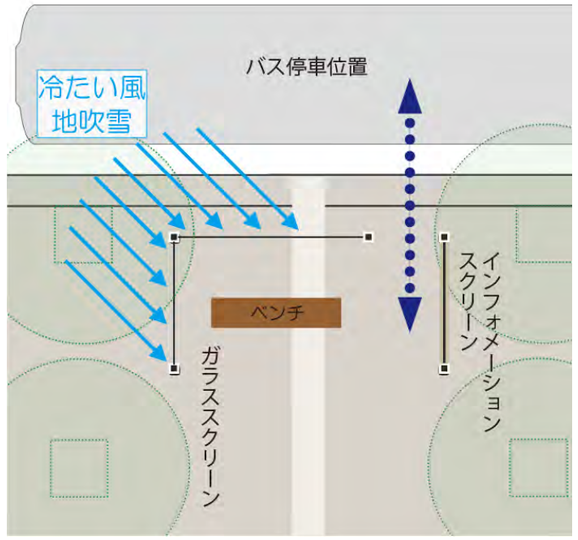
駅前のバス停を集約し、交通結節機能を強化するために必要な施設や機能のあり方について

冬でも安心、かつデザインに優れた多機能バス停

ガラススクリーンで囲まれた屋根付のバス停

・バス停は三方をガラススクリーンで囲い、屋根を懸けます。普段の雨風はもちろん、冬の厳しい北西からの地吹雪の影響を軽減しバス待ちの負担を減らします。

・酒田駅方面に通じる歩行者経路には融雪設備の配置を計画（敷地内）しており、冬の駅方面や駐車場への徒歩移動の安全性を向上します。



インフォメーションスクリーン

・ガラススクリーンの一つはインフォメーションスクリーンとします。観光情報やライブラリーセンターの企画等、「光の湊」のイベント情報の発信のほか、市内の他の観光資源に関する情報の発信も可能で、バス利用による回遊性を高める効果が期待されます。